

# リオ五輪で集大成を

## MTB山本、今季を振り返る



自転車マウンテンバイク(MTB)の日本人トップ選手で、幕別町出身の山本幸平(27)はSPECIALIZED(スペシャライズド)国際アウトドア専門学校、帯広農業高出(27)は今年、ロンドン五輪出場、アジア選手権4連覇、ワールドカップ(W杯)で過去最高の16位と充実したシーズンを過ごした。今年1月に移籍した世界一とされる強豪チームの一員として実力に磨きを掛けており、31歳で迎える次期リオデジャネイロ五輪について「気持ちと体のバランスが一番良い年齢。トップと戦うためにしっかりと準備したい」と意欲を見せている。

(北雅貴)

山本は、北京五輪に続き2大会連続となった8月の

充実の1年を振り返り、次のリオデジャネイロ五輪に向け闘志を燃やす山本幸平(12日・幕別町役場で)

# 「自転車人生懸ける」

## 強豪チームで実力磨く

ロンドンで27位。スタートで前にいた選手が転倒し、避けて走ったために出遅れた。「前が詰まって抜け出せなかった。思い描いていた走りができなかったが、これもマウンテンバイク。10位以内を目指していただけに目標達成できずに残念だが、そのときの百パーセントの力は出せた」と振り返る。

### 迷いなく移籍

五輪開催年でのチーム移籍は、大きな決断だった。正式にオファーが届き、トップチームから誘われるのは、めったにない機会。五輪も当然大事だが、世界のトップ選手と走って成長したい」と迷いはなかった。拠点もフランスからスイス

に変わった。

ロンドン五輪金メダリストのヤロスラフ・クルハヴィー(チェコ)ら、トップライダーと行動をともにして一番驚いたのは、オンとオフの切り替えが上手なこと。練習や大会では自分を追い込むが、それ以外ではリラックスしている。「自分息の抜き方が下手だった。自分にストレスをかける必要だと感じない生活は必要だと感じた。大会までの気持ちの持つて行き方など視野も広がった」と話す。

### 「実り多い年」

10月のアジア選手権では兄の和弘(30)にキャノンデールレーシングチーム、北海道ハイテクノロジー専門学校、帯三条高出(27)と

「スイスで本格的な練習を再開する。さらなる飛躍に向けて新たな取り組みも始める。呼吸に使う筋肉をトレーニングで鍛えるという。「トップ選手が取り入れている。大会ではスタートで全員が力を入れて走るが、トップはまるで呼吸していないかのよう。参考にしたい」と食欲だ。リオデジャネイロ五輪へ向け、「この2年が非常に大切。W杯でトップ10に入らないとリオでは勝負にならない。自転車人生を懸ける思いでレースに臨む」と力を込めた。